

## 原発訴訟と裁判官の責任（レジュメ） ' 19/5/26

- 1 はじめに
  - 2人対15人
- 2 危険性の二つの意味
  - 巨大隕石の危険
  - オスプレイの危険
- 3 福島原発事故について（危険性の1番目の意味）
  - マグニチュード（M）とガル
  - 図1 止める・冷やす・閉じ込める
  - 4号機 図2 菅総理と近藤駿介委員長 図3 図4
  - 2号機は欠陥機か
  - ロナルド・レーガン
  - シン・ゴジラ
- 4 発生確率について（危険性の2番目の意味）
  - 近藤駿介委員長とビートたけしの対談
  - 反比例の原則
  - 表1
  - 表2
  - 表3
- 5 強震動予測の科学性について
  - 三重苦
    - 観察できない
    - 実験できない
    - 資料がない
  - 北九州豪雨 2017年7月  
180ミリと1000ミリ
  - 武村雅之教授（活断層研究28号2008）  
「強震動予測をストレートに耐震設計に結びつけているのは原発だ  
け」  
「一般建物側から見れば、震源がすべて特定されているわけでもなく、  
予測されていない震源から思わぬ強い揺れが来るかもしれない状況  
では、そんなに簡単に強震動予測の結果を採用するわけにはいかな  
い」  
「強震動予測は未だ研究段階にあり、普遍的に社会で活用できる域に達

しているとは言い切れない。」

6 原発と科学について

- 仮説と定説  
大陸移動説とプレート理論
- 仮説と科学的事実
- アイザック・ニュートン  
「私は浜辺で遊んでいる子供のようなものである。時々普通よりもなめらかな小石やきれいな貝殻を見つけて夢中になっている。真理の大海はすべて未知のまま目の前に広がっているというのに」
- マハトマ・ガンジー（七つの社会的罪）  
「人間性なき科学」

7 15人の裁判長はなぜ差止めなかったのか

- 2人は風変わりか、圧力に屈しなかったのか
- 伊方最高裁判決（1992年）の魔法  
「原発訴訟は高度の専門技術訴訟であり、原発が安全かどうかを裁判所が直接判断するのではなく、規制基準が合理的か否かを最新の科学的知見に照らし判断するのが相当である」
- 頑迷な先例主義 つじつま合わせの合理性

8 基準地震動の信頼性の二つの意味

- 基準地震動を超える地震は来ない  
仮説と定説の違い、  
理論面と実績面
- 基準地震動以下の地震では破損、故障しない  
基準地震動の引き上げ（止める、冷やす、閉じ込めるからの限界）  
コンピュータシミュレーションと実験の違い  
原発の老朽化の特殊性（①入換不能、②安全側に働かない）

9 原発と責任論

- 禁忌
- 私達の責任

図 1

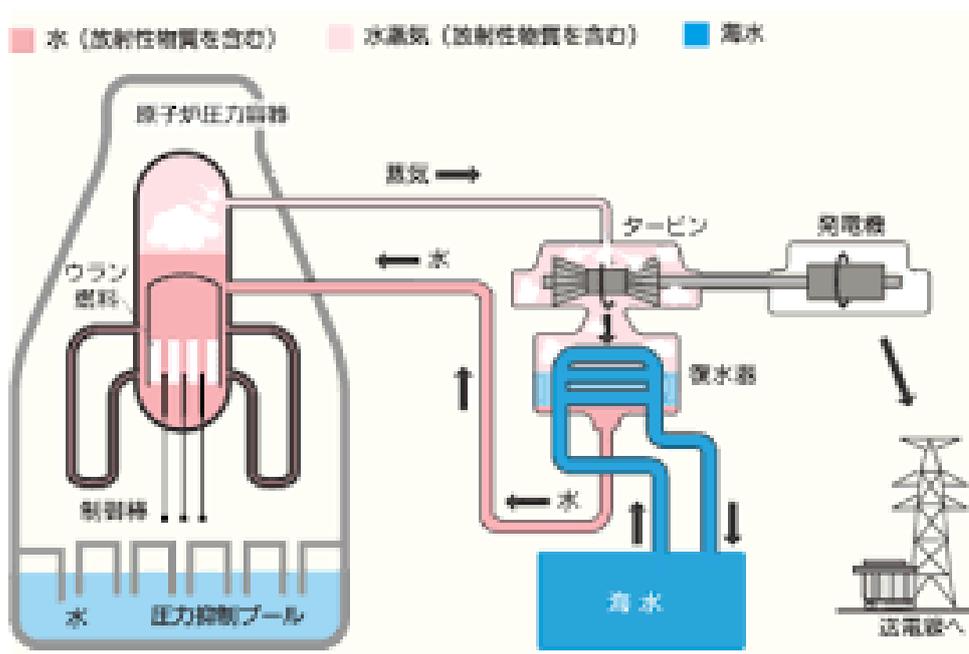


図 2

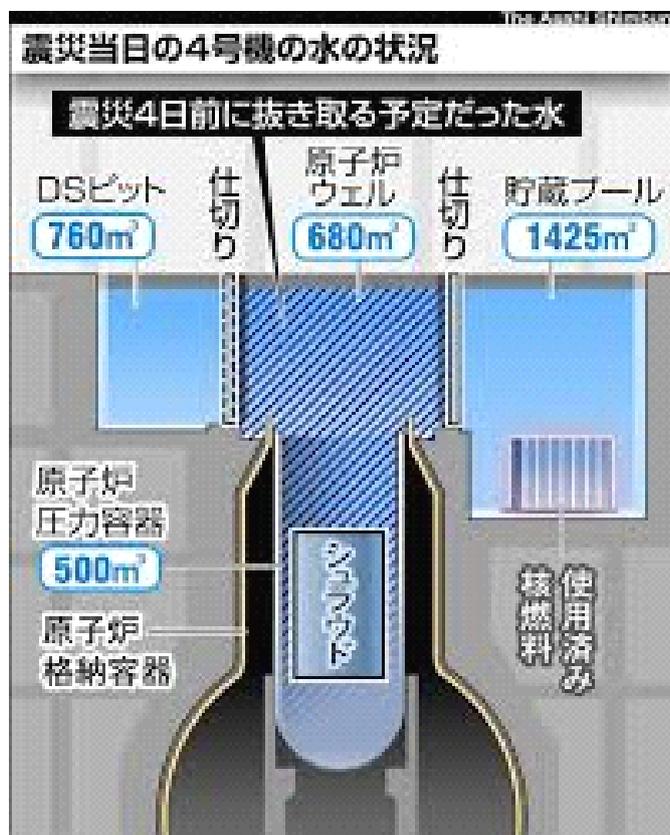




表 1 2000年以後の主な地震

※ 5115ガル
★4022ガル (岩手宮城内陸地震・2008年・M7.2)
※ 3406ガル
★2933ガル (東日本大震災・2011年・M9)
★2515ガル (新潟県中越・2004年・M6.8)
★1796ガル (北海道胆振東部・2018年・M6.7) ★1740ガル (熊本・2016年・M7.3) ★1584ガル (鳥取県西部・2000年・M7.3) ★1571ガル (宮城県沖・2003年・M7.1) ★1494ガル (鳥取県中部・2016年・M6.6) ★1300ガル (栃木県北部・2013年・M6.3)
★1000ガル～16回
★ 806ガル (大阪府北部・2018年・M6.1) ★ 703ガル (伊豆半島・2009年・M5.1)
※ 700ガル      ★ 700ガル～29回
※ 405ガル

表2 基準地震動の推移

	建設当時	3.11当時	2018年3月時点
大飯3, 4号機 福井県	405ガル	700ガル	856ガル
福島第一1～6号機 福島県	270ガル	600ガル	
伊方原発3号機 愛媛県	473ガル	570ガル	650ガル
柏崎刈羽原発1～4号機 新潟県	450ガル	2300ガル	未申請

(原発はどのように壊れるか 原子力資料情報室110頁 抜粋)

表3 震度、最大加速度の概略の対応表

震度等級	最大加速度 (gal)
震度4	40～110ガル程度
震度5弱	110～240ガル程度
震度5強	240～520ガル程度
震度6弱	520～830ガル程度
震度6強	830～1500ガル程度
震度7	1500ガル程度～

(国土交通省 国土技術政策総合研究所)

